

令和7年8月28日

大河原町議会議長 丸山 勝利 殿

文教厚生常任委員会
委員長 山 崎



所 管 事 務 調 査 報 告 書

本委員会は、調査中の案件について下記のとおり調査を終了したので、大河原町議会会議規則第76条の規定により報告いたします。

記

1. 開催の日時 令和7年7月9日（水）10時00分
2. 開催の場所 駅前図書館・オーガ会議室
3. 出欠委員の氏名
出席委員 山崎 剛 佐藤 巖 万波 孝子
岡崎 隆 高橋 芳男 中村 淳
高屋 伸一
欠席委員 なし
4. 説明のため出席した者の職氏名 生涯学習課 課長 齋 修
駅前図書館 館長 小野 宏
5. 議会事務局の出席職員の出席職氏名 議会事務局 局長 木村 武俊
同 主事 佐藤 邦彦
6. 所管事務の調査事項
(1) 駅前図書館の現状について



7. 調査の結果及び意見

(1) 駅前図書館の概要

①基本方針

生涯学習の拠点と位置付け、幼児から高齢者まですべての町民が「学びたい」という意識を持ち、よい文化に触れ、豊かな人間形成を図るため、図書館が必要な情報を日常的に提供している。

また、町民の交流や休息の場となるとともに、インターネット等の活用や子どもの生活環境の変化による「読書離れ」の改善を図り、読書活動の推進に努めて運営している。

②施設状況

- ・施設：本館 368.9 m²、絵本と学びのへや 198.5 m² 合計 567.4 m²
- ・蔵書数：55,512 点 (R6 年度末・図書 53,736 冊、AV1,776 点)
- ・設備：DVD・ビデオ館内視聴用 TV 3 台
仙南日日新聞電子データ検索用 PC 1 台
放送大学教材視聴用 PC 1 台
館内蔵書検索 PC 2 台

③運営目標

- ・数値目標：図書蔵書数 町民一人当たり 2.3 冊 (県内平均 2.63 冊)
年間貸出数 町民一人当たり 3.3 冊 (県内平均 3.73 冊)
- ・住民参加：読み聞かせボランティアの育成と支援。
利用者の声を反映する仕組みづくり。
- ・資料提供：各分野にわたる適正な蔵書構成の確保。
利用者ニーズにあった資料確保。
郷土資料及び地域の課題解決に必要な資料の収集・活用。
- ・その他：遊び、学び、癒しのあるエリアづくり。
放送大学宮城学習センター大河原視聴学習室での生涯にわたって学び続ける機会の提供。
利用に障害のある人に優しい図書館づくり。

④事業展開

- ・子どもの読書活動推進 (児童図書・絵本の選定・確保。お話し会やイベントでの読み聞かせ。
- ・学校、公民館図書室、世代交流いきいきプラザ等との連携。
- ・所蔵期間の過ぎた雑誌等を図書館利用の希望する方に無償配布。
- ・新小学1年生及び保護者へ図書館利用案内と利用カード登録の案内。
- ・ボランティア活動 (読み聞かせ、点訳グループ「てんとうむし」、朗読グループ「糸でんわ」)

(2) 駅前図書館の課題、質疑応答での意見

- ・図書館スペースが狭く感じる。計画書庫がないため、蔵書を職員の休憩室に一部を置いたり、除斥も必要な状況。
- ・学校図書室と図書館の連携は。(情報交換会を行い、学校予算で購入できないものなどの確認。また、除斥本の提供など行っている。)
- ・利用者の声への対応は。(リクエストカードで要望のあるものの購入を行っている。)
- ・除菌機を活用しウイルス対策を行って欲しい。(R4 年度に 2 台購入)
- ・汚損となった本で高額のものは。(3,000 円台)
- ・貸出本の返却が優秀だと感じた。(1 ヶ月で電話、3 ヶ月で自宅訪問している。)
- ・お話し会、読み聞かせの状況は。(幼児とその保護者が気軽に利用する「ハッピータイム」。大型絵本等によるお話し会や紙芝居。星や七夕、星空のおはなしを聞いて天文学に触れる「星空さんぽ」など)
- ・郷土資料等の紹介は。(佐藤佐太郎、尾形亀之助など町内ゆかりのある方の本と記事を展示。)

(3) まとめ

- ・オープン当初からスペースの確保は課題があった。現状、蔵書を保管する場所がなく、管理できていない。バックヤードが必要である。
- ・オーガ内の空きスペースなど情報収集に努め、執行部内でスペース活用の協議等を行ってはどうか。
- ・新たにバックヤードを確保し、本館内のスペースを広げることができれば、猛暑対策としてクーリングシェルターでの利用も可能でないか。
- ・町民の休憩や憩いの場、読書離れの改善への取り組みなど、図書館の果たす役割は大きい。生涯学習の拠点として引き続き運営目標に取り組むことを望む。

